



ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.johas.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

消化器内科の近況



副院長 村瀬 賢一

日頃より多くの患者さんをご紹介頂き、また当院からの多くの患者さんの診療依頼を引き受けて頂き、誠にありがとうございます。最近の当科における診療内容の変化や、対応している疾患の傾向などの概要をまとめてみます。

最近、積極的に取り組んでいる治療法

- * 消化管の早期癌のうち、胃癌については以前からESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を施行していましたが、最近では、大腸癌、食道癌においても、適応症例においては、徐々に治療件数を増やしつつあります。
- * 肝細胞癌においては、新しい分子標的薬が保険認可されつつあり、従来の治療に加えて、特に遠隔転移を伴う症例等にも積極的に治療して、生命予後の延長を目指しています。

検査機器の進化

やはり内視鏡領域で顕著にみられ、高解像度の内視鏡システム、拡大内視鏡、NBI等、早期癌の診断、治療などに寄与しています。また胆道系、膵臓領域も含めて、超音波内視鏡、超音波内視鏡下吸引生検なども解像度の向上により、診断精度が高くなりつつあると評価しています。

入院症例の推移

疾患別の年次統計で見ると、増加傾向が目立つのは、膵癌、肝胆道系の癌、大腸憩室出血、憩室炎などです。また、数年間の変化で見ると、胆嚢結石、胆嚢炎に比べて、総胆管結石、胆管炎の症例割合が増加しています。これらは、患者さんの高齢化も原因の一つかと思います。また以前は稀と云って良かったのですが、最近では女性の食道癌も散見されるようになりました。

その他

最近利用していただいているインターネットWeb予約

以前から画像検査（CT,MRI）は、Web予約可能でしたが、平成30年9月からは、内視鏡検査（胃カメラ、大腸カメラともに）のWeb予約も開始し、すでに多くの予約をいただいています。便利なシステムですので是非ご利用下さい。

入退院支援センターの取組について



看護副部長 林 幸子

日頃は、中部ろうさい病院の地域連携室を通して、大変お世話になっております。

当院では、在宅調整を退院支援看護師が担当し、転院調整を医療ソーシャルワーカーが担当しております。急性期医療を終了した患者さんが円滑に退院できるように、「入退院支援センター」を設置して、早期に退院困難患者さんの状況の把握に努め、その介入に取り組んでいます。

この「入退院支援センター」は、PFM（Patient Flow Management）システムを導入し、院内連携はもちろんのこと、地域との連携、切れ目のない医療を提供するものです。入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう、患者さん一人ひとりの状況を身体的、社会的、精神的背景から把握し、患者さんの状況に応じた入退院調整を行い、退院後も含めた一貫した支援と病床の管理を合理的に行うことなどを目的とする病院内の組織です。スムーズな入院をサポートし、退院支援・退院調整が促進できるためには、PFMスタッフと院内の多部門・多職種のスタッフの協力が必要であり、さらに、院外における地域の医療機関や福祉機関との連携・調整を充実していく必要があります。

具体的には、診療所との患者紹介に関わる関係作りや治療後の逆紹介のタイミングや連携情報も、看護師や薬剤師、栄養士、リハビリ療法士、医療ソーシャルワーカーなどの医療者が関与することで極めて向上できるものと思います。開業されている先生方からの依頼への適切な対応や医師以外の医療スタッフの皆さんとの技術的な支援や医療相談といった実務レベルの関係作りができれば、強い信頼関係を築くことにもなります。これは、地域医療の機能分化にとっても重要な連携要素で、病診連携や在宅医療との連携には必要不可欠なものになります。病院と地域とを繋ぐ「コーディネーション」は重要であり、「入退院支援センター」の機能と役割を知っていただき、情報共有の強化と内からも外からも見えやすいシステム作りを目指したいと思っております。これまで、退院支援の介入実践を増やしてきましたが、これからは、入院支援の介入にも力を入れ、入院・退院両方の支援を充実させていく予定です。

最後になりましたが、先生方の益々のご発展をお祈りし、今後とも、当院の「入退院支援センター」へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



緩和ケアチームの取組について

副院長 坂口 憲史



日頃は当院の病診連携・病病連携にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

現在、『日本人の2人に1人が癌になり、3人に1人が癌で亡くなる』と言われる時代となりました。私は、30年以上がん患者とともに歩んできました。お元気になられた方も、亡くなられた方もみえました。以前は、緩和ケアやチーム医療という概念がまだ周知されておらず、個々の医療者が自己の経験と知識で治療期、終末期のケアを行っていました。そんな中、当院では2008年にがん患者の身体症状及び精神症状の緩和を目的として緩和ケアチームが発足しました。初めは医師2名、看護師2名で兼務の形で始まりました。したがって、日常診療の合間に時間を作り、集まって活動をしてきました。院内での啓蒙活動、患者、医療スタッフへのサポートなど地道な活動を行ってきました。その甲斐あって、徐々に緩和ケアチームが認知され、現在では、医師3名、看護師3名、薬剤師2名、栄養士1名、メディカルソーシャルワーカー2名と多職種で構成されたチームとなりました。チーム活動は、緩和ケア外来診療を毎週火曜日の午後に行っています。病棟では、緩和ケア病棟はありませんが、毎週金曜日の午後にはチームカンファレンスとラウンドを行い、主治医、病棟看護師とともに患者の身体的、精神的症状やその他の苦痛の緩和、退院支援に対する具体的対応を検討し、実践しています。近年は、がん患者だけでなく、神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患等の慢性疾患患者の緩和ケアも行っています。

診断から終末期まで治療のすべての時期に関わり、患者、家族の意思を尊重し、患者がより良い治療を、苦痛を軽減して受けられるように努めて参りたいと思います。今後ともご支援の程、よろしくお願ひします。

地域医療連携室だより

平成30年度病病・病診連携サービス実態調査の結果について

地域連携サービスの向上を目的として、10月から11月にかけて「病病・病診連携サービス実態調査」を実施しました。紹介件数上位200の医療機関にアンケートを配付し、106件のご回答を得ました。ご協力いただきました先生方には、改めて御礼申し上げます。アンケート結果ですが、地域の基幹病院としての「有用率」が89.3%と昨年度より+1.5ポイント増加しました。しかしながら、昨年度より満足率が低下している項目もあり、またフリーコメントにおいては、手厳しいご意見も頂きました。アンケートの結果を受けて、これからの一層、連携サービスの向上に取り組んでまいりますので、引き続き患者さんご紹介をよろしくお願い致します。

中部ろうさい病院病診連携システム運営協議会を開催しました

去る2月2日(土)に地域医療支援病院として、年1回地域の先生方との連携システムに関する運営について検討する協議会を上前津のローズコートホテルで開催しました。名古屋市医師会の担当理事をはじめ、運営委員の先生方にご出席いただき、30年度の当院の紹介実績や取組事項などを報告し、ご意見を頂戴しました。お忙しいところご出席いただいた先生方におかれましては、心より御礼申し上げます。

中部ろうさい病院冬季病診連携セミナーの開催を開催しました

病診連携システム運営協議会と同日に、同じくローズコートホテルにおいて冬季病診連携セミナーを開催しました。今回は、当院の丸井伸行副院長(救急部長)が『名古屋市消防と当院の救急外来の現状について』と題して講演いたしました。

地域の先生方だけでなく、他院の病診連携担当職員や薬剤師会の先生方にもご出席いただき盛況を得ました。セミナー終了後、運営協議会にご出席いただいた先生方も交えて意見交換会を開催いたしました。当院職員も多数出席し、連携の先生方と地域連携に関して積極的な意見交換が行われました。

～Web予約「カルナコネクト」の予約種類が増えました～

従来のCT、MRIの予約に加えて、診察(10診療科)、上・下消化器内視鏡の予約ができるようになりましたので、ぜひご利用ください。※MRI単純撮影については土・日曜日でも予約できます。

医師交代

☆採用

(平成30年12月1日付け)

本多 登代子 泌尿器科医師

(平成31年2月1日付け)

肥後 早也香 循環器内科医師

奥村 衣里子 脳神経外科医師

☆退職

(平成30年12月31日付け)

西川 佳典 循環器内科医師

☆補職

(平成31年1月1日付け)

長坂 暢 第二病理診断科部長

伊藤 浩 呼吸器内科副部長

総合内科副部長

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室

(平日 8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室長: 坂口 憲史 (副院長)

連携課長: 藤田 実

事務担当: 峯垣 知広・内藤 遵子・

金井 久実